

協議会ニュース 47号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1993. 10



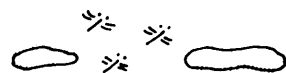
愛知県森林公園園植物園

ボート池とも呼ばれている大道平池の入江（上流は水生園に続くところ）の右岸にあたるところに、秋の紅葉（11月下旬～12月初旬）が大変美しいところがある。

アベマキ・コナラ・ヤマザクラなどが大きく成長し、その下層にイロハモミジ・コバノミツバツツジ・ガマズミ・ソヨゴ・イヌツゲなどが生育している。

（次ページの本文に続く）

★ 表 紙 の 絵 ★



この植物園は名前の割には植物の種類が少ないのが難点であるが、ほとんど手を入れないで管理されている森林がたくさんあり、その方が平地に残された森林として今後ますます価値が高くなると思われる。

もともとハゲ山であったようであるが、昭和の初期から始められた治山緑化の甲斐があって、見事な森林に回復している。

植物園としては、いろんな樹種を植栽しても地味が悪く、育ちが悪かったり、大木となっても大風が吹くと倒れてしまうなど管理面で困難なことも多いようである。

松林 幸雄

事務局から その1

〔普及部会〕

★ 自然観察会の実施状況について

6月6日に行われた全県一斉自然観察会の結果は次のとおりでした。

- ・東谷山（守山区） 6/ 6 AM
指導員 13名、参加者 46名
 - ・定光寺（瀬戸市） 6/ 6 AM～PM
指導員 15名、参加者 59名
 - ・任坊山（半田市） 6/ 6 AM
指導員 11名、参加者 48名
 - ・王滝溪谷（田原町） 5/30 AM
指導員 5名、参加者 2名
 - ・権現の森（田原町） 6/ 6 AM
指導員 14名、参加者 92名
 - ・岩古屋山（設楽町） 5/30 AM
指導員 4名 参加者 3名
- また、5年度上半期に行われた県委託の自然観察会は次のようでした。
- ・野間海岸（美浜町） 5/ 8 AM～PM
指導員 14名 参加者 154名
 - ・大入溪谷（東栄町） 7/25 AM～PM
指導員 6名 参加者 35名

★ 普及部会の結果

〔期日〕 平成5年7月4日（出席：8名）

〔場所〕 名古屋市教育館

〔内容〕

① 全県一斉自然観察会について

本年度の一斉自然観察会は、延べ 250名の参加者があり、昨年の2倍以上という盛況でした。しかし、一斉に行くことの意味を十分果たしていない面もあり、また協議会の観察会は勉強の場として、実験の場として捉えていく必要もあります。そこで、6年間続けた一斉観察会の内容を一部変えて、来年度からは「シリーズ観察会」として、同一のテーマで各支部が観察会を行うものに変えていく方向で、検討することとなりました。

② 指導員交流会

来年に指導員の再登録手続きをする者を対象として、指導員交流会を2月27日に行うこととなりました。内容は、情報交換・懇親を主としたもので、再登録の受付事務も行います。場所は、名古屋市内。

③ 今後の研修会について

レッドデータブック等時事的な研修、又は湿地等会員が研究を行っているものをテーマとした研修会を、年度内に行うよう検討します。また、来年度はキャンプ研修を行い、自然に親しみ、自然を心で見るときの集いを実施する予定です。

作手湿原のカヤツリグサ科寸評

権田 昭一郎(顧問)

作手湿原には、1991年現在シダ植物門6科17種、裸子植物亜門3科7種、単子葉植物綱21科129種、離弁花植物亜綱27科166種、合弁花植物亜綱48科196種、種子植物合計99科498種、総合計105科515種の植物が確認され、シダ係数0.85、帰化率3.15である。

それらの中、比較的カヤツリグサ科に特色のあるものが多く、その2～3について確認の経緯等を紹介したい。

1. サギスゲ *Scirpus Ardea* T. Koyama var. *coreanus* T. Koyama.

本種は南設楽郡作手村大字白鳥地内、大野原湿原(面積60ha、現在は全域が水田)にて鈴木準一氏(作手村大字田代、元田代小学校長)によって成育が確認され、鳥居喜一氏(新城市西新町)が「植物研究誌 第33巻第11号 昭和33年11月」に「高等植物分布資料(6)」として公表れ、その原文は次のとおりである。

「本年6月サギスゲを三河国作手湿原清岳(きよおか)で採集した。東海地方では新記録である。サギスゲは本州中部まで南下しており、分布の限界付近では高山の泥炭地に残る。緯度的に限界は大和国薬師(大井・京大理紀B, 18:88)、また、西限は神戸六甲山(小山・東大理紀art. 3, 7:356)である。作手村ではサギスゲと共にヌマガヤ、マアザミ、ミズギク、サワラン、ハイニガナ、ハルリンドウ、ミタケスゲ、レンゲツツジ等がある。」

本種は、その後大字田原字浮横手(東田原湿原・面積0.5ha)にも確認されたが、昭和37～40年、水田開発の対象となり湿原は消滅した。以後作手村のサギスゲは絶滅したものとされてきたが、近年熊谷尚久氏(新城市、新城東高校教諭)等により大字中河内字ユルメキ(ユルメキ湿原・面積2ha)に成育が確認され、現地調査の結果かなりの広範囲の群生が確認されいる。

2. ヌマクロボスゲ *Carex meyeriana* Kunth.

鳥居氏(前記)により、昭和20年前半に大字鴨ヶ谷字林ゾイ(鴨ヶ谷湿原)にて自生が確認され、昭和31年3月7日中部日本新聞で「ヒメザサ等300





種・珍しい植物の宝庫」として、北村四郎氏、小山鉄夫氏、大井次三郎氏等を始め、当地を訪れた著名人の名前とともにミカワバイケイソウ、ツクデマアザミ、ミタケスゲ、ツルカミカワスゲ、ミカワイヌノヒゲ、アケボノスミレ、カキノハグサ、サワラン、サギソウ、トキソウ、カキラン、ミズトンボ、スイラン、カキツバタ、ノハナショウブ、サクラバハソノキ、ケハソノキ、ヒツジグサ、クロミノニシゴリ、ヒメミクリ等の分布が紹介されている。

本種は、本州中部地方以北に成育する寒地系のスゲで、桿高30～50cm、春桿頭に栗褐色の雄穂をつけ、葉は細くて堅く大株に叢生し所々に谷地坊主も見受けられたが、当該湿原も、周辺部の農地開発等の影響で前記の植物も絶滅、瀕死の状態である。

3. ヒロハノコジュズスゲ *Carex parciflora* Boot var. *tsukudensis* T. Koyama var. nov.

本種も鳥居喜一氏（前記）により東田原湿原（前記）で発見され、小山鉄夫氏の命名発表によるものであり、原文は「植物研究雑誌 第31巻第9号・昭和31年9月：日本産カヤツリグサ科の新植物（追加）」として次のように掲載されている。

T. Koyama: Some novelties of Japanese Cyperaceae.

Carex parciflora Boot var. nov. —Robustior, rhizomate vix laxe caespitoso breviuscule stoloniefro fibeis fuscopurpreis oblecto radices robustiusculas multas emittente, culmi pauci ad 8dm alti. foliis (3—) 5—10mm latis tricostatis supra obscure viridibus subtus valde alboglaucis, ligulis dilute fuscis circ. 3mm longis, vaginis fuscopurpurascens val purpureobrunneis. Honsu: Tsukude in prov. Mika-

wa:wet place in summergreen woods (T. Koyama, 11138!-TI)

つまり、本種の特徴について「グレースゲ系の一変種で、巨大形、葉幅が広く白色を帯びる点と、葉舌が著しい点で母種と区別され、作手湿原産のコジュズゲはそのほとんどがこのタイプである」と言う。

4. その他 この他、作手村において湿原及びその周辺に見られるスゲ類の中、当地が県下唯一の産地とされるものに、コミヤマカンスゲ *Carex multifolia* Owivar. Toriiana T. Koyama var. nov. (鳥居喜一氏が大字岩波地内のスギ林下で発見、小山鉄夫氏命名のミヤマカンスゲの変種) ツルカミカワスゲ *Carax praestabilis* Ohwi. (鳥居喜一氏が鴨ヶ谷湿原で発見、分布南限) ミヤマナルコスゲ *Carex Shimidzensis* Flanch. (大字岩波字長ノ山・長ノ山湿原に分布) ミタケスゲ *Carex Michauxiana* Bocreler var. *asiatica* Ohwi (作手村各地の湿原に豊産) がある。



事務局から その2

〔運営部会〕

★ 自然観察指導員講習会

平成5年10月9日～11日の3日間伊良湖国民休暇村で自然観察指導員講習会が開かれます。愛知県では、今年で9回目の開催となります。申込者は148名あり、抽選は3倍近い倍率となりました。

講習会終了後は、新たな会員が加入しますので、各支部で暖かく迎え入れたいと考えています。

〔編集部会〕

機関誌の原稿を募集しています。どんな内容でも構いませんので、どんどんお送りください。また、「私の自然」コーナーの原稿も特にお待ちしています。県内各地の自然についての出来事や季節の状況についてまとめてください。

原稿送付先は、伏屋光信（住所はP19に記載）まで。



自然観察について

大 竹 勝

私の自然観察という内容で原稿を依頼されましたが、個人と協議会をはっきり区別することが立場上困難でありますので多少混同した内容になりますが、自然観察について述べて見たいと思います。自然環境は過去50年かかた変化が5年もたたないうちに経過しています。こんなスピードで消滅する自然状況で、後世に自然を残すことができるのだろうか？次世代にこの自然を伝えるために何をするべきか、観察会をとおして自然の素晴らしさ、大切さを多くの人に理解してもらう必要があります。

なぜ自然観察会を行うのか、と問いかけられることがあります。私はいつも自然から、人間も自然の中の一員であり自然なくしては生きていけないということ、それを自然その物から学んだことです。さまざまな生き物たちの日々の暮らしに感動しながら、人類も生態系の一員という自覚を学びました。自然との接点の観察を通して多くの感動を得てきました。この感動をより多くの人々に味わっていただきたいと思います。そしてその仕組みや大切さを体で感じて理解してほしいことです。このような自然を理解する仲間を増やしたい、こんな思いをこめて観察会をしています。

自然観察指導員の講習で指導方法の概要を学びましたが、これはあくまでその第一歩の出発点です。講習会でいわれた「名前を教えるのではなく仕組みを教える」ということにこだわり理論だけで指導をする人を見かけます。たしかに名前だけを多く知ることが自然を理解することとは思えません。自然の仕組みを教えるために指導者はある程度の種類を識別することは必要です。指導者は常に自然から学ぶ必要があります。そこで学んで理解したことを人々に伝えるのです。生き物の名前は基本的には種類を識別して、生態系のなかでその占める役割を知るのに必要なものです。すべての種類を知ること

は不可能ですが、少なくとも自身が指導する範囲の中で名前（種名ではなく）を覚える必要があります。このとき名前だけでなくその種類を観察してその生態や役割について学習することが大切です。しかしそれをすべて観察会で教える必要はありません。参加者は学校教育のように、同一年齢集団ではありませんし自然に対する理解度も同一ではありません。まして自然の状況は単一ではありませんので、対象や場所に合わせた対応が必要となります。多くの予備メニューを持つことが重要で、そのため指導員は常に自己の研鑽をする必要があります。

観察会の下見はあくまで現場の確認と自然状況の把握です。下見の時他の指導員から聞いたことを、観察会当日にそのまま伝えようとする指導員に出会うことがあります。その指導員が本当に理解していない場合は、なかなかうまく伝わりません。ある観察会の参加者から“あの先生は熱心でよかったのだけどポイントをさがすのに大変だった”という話を聞いたことがあります。いろいろたずねてみるとその指導員は下見の時に定めておいた場所がわからなかったようです。ようするに下見の時は理解していると思っていたが本当に理解していなかったのだと思います。私もそうならないように下見の時も常に自然から直接学び、自身が感動できることを発見しようと心がけています。

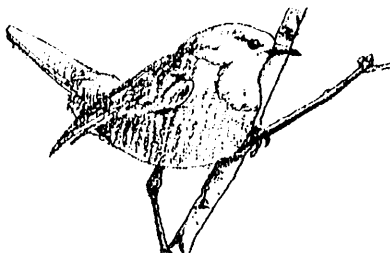
集団指導の協議会の観察会はそれなりにメリットはありますが、その反面指導者が固定化して新しい指導者が育ちにくいことです。各指導員が協議会の観察会で指導力を身につけ、それぞれの地域でミニ観察会を個別に実施することができれば、もっと多くの人達を対象に観察会を行うことができます。自然を知り、その大切さを知る人が多くなれば、自然を保護することへの理解も深まります。協議会がそんな役割を果たすことができればと思います。

協議会活動に思う、その2

名古屋支部 篠田 陽作

■ 前回は協議会の内の問題について書きましたが、今回は協議会「個々の指導員を含む」と社会との問題について考えて見たいと思います。近年特に地球環境問題がクローズアップされて、環境問題、ゴミの問題、リサイクルの問題が熱く語られる時代になりました。その結果として環境教育とか自然に対する考え方の反省と再考が言われ始めています。この環境教育の始まりとなったのが、1975年に国際環境教育会議で採択された、ベオグラード憲章では次のように述べている。「環境とそれにかかわる問題に気付き、関心を持つと共に、当面する問題を解決したり、新しい問題の発生を未然に防止するために個人及び社会集団として必要な、知識、技能、態度、意欲、そして、実行力を身に付けた人を育てること」そして具体的な目標として次の6段階が整理されています。「関心を持つこと、知識を身に付けること、態度を身に付けること、技術を身に付けること、評価できる能力を身に付ける、参加することです。このように環境教育に対する理念がすでに20年前に言われているが、我々は何をしてきたのか？と聞かれても答えられません。特に私たち自然観察指員はこれらの知識や技術を正確に理解して、社会に対して、生活態度や、価値観を変えたり、さらに環境を守るために、

行動を起こしたり、この考えをまわりにひろげてゆく努力をしなければいけない立場に居るのではないのでしょうか。これが今回私が提案したい協議会「個々の指導員を含む」と社会とのかかわり方の問題です。指導員が個々に自然に親しんだり、観察すると同時にやはり社会的問題となっている地球環境を含む自然保護の流れをさらに拡げてゆくための方法を考えたり、話し合っ、協議会と指導員が一体となり社会に貢献をしなければいけない時ではないのでしょうか？前回の協議会ニュースの編集後記で伏屋さんが述べておられた、ボランティアの基本理念、自発性、自主性、無償性、公共性、先駆性などもこの問題と共通点があるのではないのでしょうか？自然観察指導員の皆さん指導員を単なる趣味で終わらせることなく、大きな視野に立って環境教育の一助になるように努力してください。そのような皆さんの熱意と努力の積重ねが結果として協議会の活動を活性化してゆくと思います。



愛 知 県 の 土 地 利 用

尾張支部 石 川 賢 一

1 土地利用の面からみた愛知県（表1）

愛知県の県土面積*¹は514,628haです。全国の47都道府県の中で28番目ですから、小さいほうから数えたほうが早いわけです。

人口*²は、東京、大阪、神奈川に次いで4位、人口密度は埼玉県に抜かれて5位です。愛知県のように人口が集中している県は土地にも人の手が多く入っています。

平成3年の愛知県の土地の利用のされかた*³は表1のとおりです。当然ながら、全国平均*⁴に比べて森林の割合が低く、宅地と道路の割合がかなり高くなっています。

愛知県は昭和52年以来ずっと工業品出荷額*⁵が毎年全国1位を続けている工業県ですから、宅地のなかでも工業用地が占め

る割合が高くなっています。その一方、農業粗生産額*⁶5位の農業県でもありますので、農用地の割合が全国平均や、3大都市圏よりも高い数字となっています。農村風景もまた愛知県の身近な自然風景です。

2 県内を3つに分けてみると（図1）

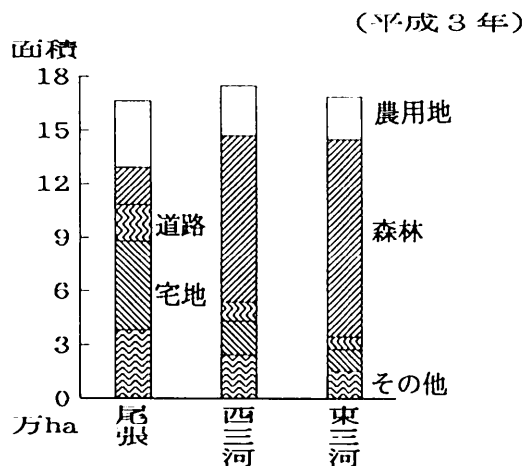
比較的土地が平らで、県下の人口の7割が集中している尾張部には、宅地も4.9万ha（県下の宅地の6割）が集中しています。尾張部には森林は2万haしかありませんがそのうちの6割が天然林です。都市近郊の貴重な緑といえます。

山がちな三河部には森林が多く、西三河には9.3万ha、東三河には11万haあり、県下の森林面積の9割が三河部にあります。林業が行われているため、人工林率は西三

表1 全国及び愛知県の土地利用の現況*⁷

	全国	三大都市圏	地方圏	愛知県
農用地	14.0	15.0	13.9	17.7
森林	66.8	51.9	68.5	43.5
原野	0.7	0.0	0.8	0.0
水面河川水路	3.5	4.1	3.4	4.7
道路	3.0	5.3	2.8	7.8
宅地	4.3	12.7	3.3	15.5
住宅地	2.6	7.9	2.0	9.0
工業用地	0.4	1.5	0.3	2.5
その他宅地	1.2	3.3	1.0	3.9
その他	7.6	10.9	7.2	10.8
合計	100	100	100	100

図1 地域別土地利用状況





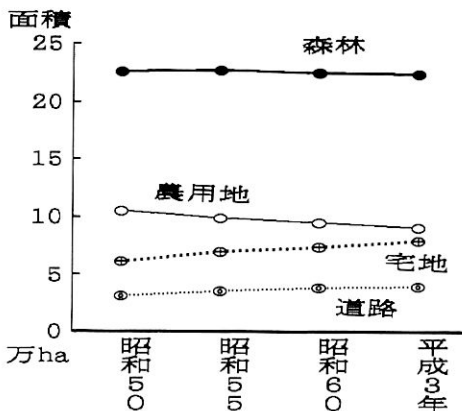
河が6割、東三河が8割に上ります。三河山間地域でも天然林はやはり貴重です。

3 過去の数値と比べてみると(図2)

平成3年と16年前の昭和50年とを比べてみると、農用地が15,120ha(14.2%)、森林が3,705ha(1.6%)減少し、一方宅地が17,396ha(27.9%)、道路が7,792ha(24.1%)増加しています。宅地・道路とも年平均の増加分は漸減していますが、森林は平均で年間0.1%減少していることになります。

- *1 建設省国土地理院「全国都道府県市町村別面積調べ」
- *2 総理府統計局「平成2年 国勢調査」
- *3 愛知県「平成4年版 土地に関する統計年報」
- *4 国土庁「平成5年版 土地白書」
- *5 愛知県「平成3年 工業統計」
- *6 農水省「平成3年 生産農業所得統計」
- *7 三大都市圏とは埼玉、千葉、東京、神奈川、愛知、三重、京都、大阪、兵庫の1都2府6県。地方圏とはそれ以外の地域。

図2 土地利用状況の推移



簡単なウッドクラフト ⑩

名古屋支部 椿 幹雄

小枝を利用して個性的な衣服のボタンを作ってみませんか？

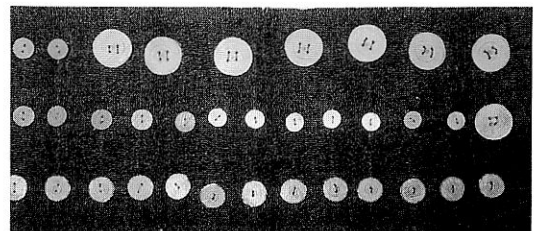
I. 準備品

- 1) 丸みのある小枝(長さ10cm程)
使用材は堅木がよい。
- 2) 目の細かいサンドペーパー
- 3) 大きさの違うプラスチックのボタン
- 4) 鋸
- 5) 四ツ目錐
- 6) 水性ニス
- 7) 針と糸(30cm程)

II. 作り方

- 1) 洗って乾かした小枝を鋸で切り、直径12mm程の枝までならペーパーで仕上げて厚さ3mm位に、小枝の直径が大きくなるにしたがい厚みが5mm位になるように。
- 2) プラスチックボタンは木に合わせて鉛筆などで印をして四ツ目錐で小さな穴をあけ、針に糸を通し穴を開けた木を通し、水性ニスを『乾いては塗り』を数回して完成。

III. 木のボタンは年輪と木皮が付いていますと楽しみも増します。



ものみ山自然観察会



北岡由美子（尾張支部）

発足は、1990年の春。万博予定地の発表があった直後です。

予定地の海上の森は、瀬戸市東部の海上地区にあり、都市近郊ながら里山的要素のよく残っている地域で、昔ながらの身近な動植物の宝庫でもあります。この森の豊かさを一人でも多くの方々に知っていただくとともに、このような自然を潰して万博を行うことの是非を考えていただきたいという趣旨で、月4回の自然観察会を行ってきました。

主要メンバーは10人程の女性で、年間延べ1,000人の人を案内しつつ、現地の花・虫・野鳥等の資料なども作成しています。

里山の良さを知るためには、とにかく現場を見て欲しいということが基本です。例えば、雑木林については、その楽しさとともに、「緑」と言ってもその内容にはいろいろなものがあることに気が付いてもらうため、植林地の森との違いを見ながら、森についての認識を深めることを観察のポイントにしています。

自然観察を通じて、天然記念物になるような自然ばかりが貴重ではない、里山の豊かな緑が身近にあって、そこに生活する人々がいる、それがとても大切なのだということを訴えていきたいと思っています。

今まで他の団体との共催を含めて次のような活動をしてきました。

’91年 春 アースディに参加。

秋 コニカビックアートコンテストに参加。県知事賞を授賞。

’92年 春と秋に「ものみ茶屋」を開く。

5月 “どうする自然 愛知万博シンポジウム”

〔名古屋市公会堂にて、コーディネーター：金森先生(愛教大) パネラー：亀井先生(はこ心理学)、牧野先生(河合塾)、角橋氏(元大阪万博主幹)〕

11月 アースはアートカーニバル
（“地球は芸術” 仮装行列）

’93年 3月 海上の森展（日産茶屋ヶ坂ギャラリーにて）

6月 万博シンポ Part2 “自然と文化の継承・海上の森を自然史博物館の森に” をテーマに
〔コーディネーター：金森先生
パネラー：河合雅雄、飯島宗一、宮脇 昭、小笠原昭夫の各氏〕

8月 海上の森の夜の観察会（ムササビ・蛾等）

こうした活動の他、B I E（パリにある万博総本部）に署名と葉書を送るような活動にも協力しています。

今後の展望としては、海上の森が県立の自然史博物館の森として残ることが、瀬戸市民を始め、県内の世論として高まるよう願っています。観察会を通じ、一人ひとりの身近な自然に対する認識がもっともっと深まるように、一步一步を大切に進むしかないようです。

「ものみ山自然観察会」定例会

毎月第2・第4水曜日、第3金曜日、
第4日曜日（愛環山口駅 10時集合）

・問合先 0561-84-2953 北岡まで

梅ヶ島研修旅行

東三河支部 神戸 敦

東三河支部の恒例夏の研修旅行が、今年も8月7・8日の1泊2日で行われた。目的地は静岡市の奥座敷、梅ヶ島温泉周辺。14人が参加した。

7日、午前7時45分に豊橋市岩田運動公園に集合。まずは東名で静岡へ。インターを出ると安倍川餅の老舗「石部屋」で腹ごしらえ。そこから10分足らずの「木枯の森」へ。何しろ、枕草子で『森は木枯の森』と言われた名勝地。蘆科川の中程にあるため、川を渡って行かなければならない。そのため幹事は、豊橋より長さ2m弱の板2枚を車に積んできた。しかし、このところの長雨で水量が増し、川幅は広がっていた・・・残念！。かくして『森を、遠くから眺めて見よう。』になった。

次の目的地は、すでに予約してある「見月茶屋」での昼食。先程の安倍川餅を食べ過ぎた人はお腹をなぜなぜ、後悔しながら店内へ。趣のある沢沿いの2階の部屋に入る。ヤマメ料理オンパレード。刺し身、唐揚げ、串焼き、酢の物・・・ビールの追加の声。まだ、研修が始まったばかりなのに「もう動きたくない。」の声も。

車は一路、安倍川上流へ。「赤水の滝」に到着。このところ、滝にとりつかれているN氏が興奮し、「いい、いい」を連発。

新田の集落で左に折れ、「大谷崩れ」に向かう。途中から石ゴロゴロのひどい道。乗用車は腹をする。さらに、登るにつれてガスや雨がひどくなる。やっと到着。視界20mで何もみえない。本来なら、大谷崩頭の1999mまでの標高差700mに及ぶ大崩壊地が広がっているのだと想像し、大谷崩れを後にした。

もとの道に戻り、「安倍の大滝」へ。ヤマユリが美しい。途中、幾つもの吊り橋がある。揺れないものもあれば歩く度に大きく揺れスリル感のあるものもある。遊歩道の最深部、滝百選に

選ばれた落差100m滝が下迫力で眼前に迫る。

夕方、4時半に宿である「力休」に着く。近くの三段の滝に行くもの、のんびり温泉につかるもの様々過ごし5時30分より宴会が始まる。ワイワイガヤガヤ盛り上がる。N氏は上半身裸になり、差し入れの酒を注ぎまくること。9時過ぎ、下の部屋で今日の反省。ビデオで一人一人の吊り橋の渡り方を見てワイワイ、それを酒の肴にまた飲む。結論、よく飲みました。



翌8日、8時に宿出発。予定では安倍峠へ行き、オオイタヤマゲツの純林を見るはずであったが土砂崩れで道が通行止めの為、「金山遊歩道」へ。仏山で引き返す予定で歩き始める。意外と小降りになったため金山跡まで行く。急登に息を切らせ、歩く。落葉広葉樹の自然林が気持ちがいい。オニグルミの巨木帯を通る。下にはリスの食べかすが残されている。金山跡に辿り着く。坑夫屋敷跡や神社跡などかつての栄華をしのばせる。

梅ヶ島を後に吐月峰へ向かう。昼食を丸子の「和楽」でとる。そばとろろがうまい。「柴屋寺」で暫し庭園を鑑賞する。

予定より時間が早いので急遽、岡部の「玉露の里」に向かう。茶室で一服し最後の目的地、「焼津魚センター」に向かう。それぞれ、今宵の夕食の材料を買い、帰路へ。無事、5時30分豊橋着。大変、お疲れさまでした。



- 1 日 時 1993年9月5日(日) 9:00～
- 2 場 所 犬山市善師野
- 3 天 気 晴れ
- 4 参加者 鬼頭、近藤義、斎竹、富山、長野、西村、平井、松尾、吉田、
松山、鈴木、林、渡辺、福富

5 概 要

雨の多かった8月に慣れた身には残暑の厳しさがこたえました。しかし、日差しは強くても少し陰にはいると冷やっとし、何か例年の蒸し暑い残暑との違いを感じさせられました。

田んぼの上にはウバキトンボの群れが飛び交い、初秋の風情をかもしだしていました。またウラギンシジミ・ムラサキシジミなどの小型の蝶がよく目につきました。

今回のテーマである化石については、いつも立ち寄る場所でそれぞれ落ちている石を割ってみました。子どもの参加もあり、熱心にメタセコイアの化石を探しましたが、満足のいく成果があったでしょうか。がけを見ると、直接掘った跡もあり、いずれがけが崩れるのではないかという不安がよぎります。化石の出る場所は1カ所ではないので、別の場所にも行ってみようと思いました。草に阻まれて簡単には近づけず、今回はあきらめました。

白山神社についたころにはもうお昼に近く、ここで弁当としました。この拝殿にはみごとなスズメバチの巣がありました。

大洞池まで来てみると、道をはさんだ小さい方の池の水面に黒い影が多数。よく見るとウシガエルのおたまじやくしでした。ここはいつ来てもものんびりした気分にはたれる所ですが、ときどき車が奥まで入ってきていることが残念です。

当日観察したもの

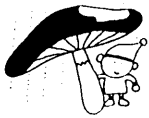
オオニシキソウ、ノビル、ヌルデ(虫こぶあり)、ハリギリ、ヤブラン、メヤブマオ、ヌスビトハギ、ハナйкаダ、コマユミ、ミズヒキ、ギンミズヒキ、アケビ、ヤブマオ、ゲンノショウコ、コナギ、カワラタケの一種、マルバルコウソウ、コミカンソウ、ミゾカクシ、キクイモ、ヨウシュヤマゴボウ、ベニバナボロギク、ダンドボロギク、カモメヅル、

キタテハ、アメンボの一種、ウスバキトンボ、ミンミンゼミ、アゲハ、オニヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウラギンシジミ、ヒメジャノメ、ヒシバツタ、アブラゼミ、ハシリグモ、ムラサキシジミ、カトリヤンマ、コジャノメ、カノコガ、クダマキモドキ、クスサン、ショウリョウバッタ、エンマコオロギ、ゴマダラチョウ、オナガアゲハ、フクラスズメ、ルリタテハ、キンモンガ、キマダラヒカゲ、

アメリカザリガニ、トノサマガエル、ツチガエル、アマガエル、ウシガエル(おたまじやくし)、ヤマカガシ、

ツバメ、コシアカツバメ、メジロ、ホオジロ

(福富裕志)



◎ 尾張支部 秋の特別企画 秋の藤原岳自然観察会報告 ◎

とき：１９９３年９月１１日（土） ところ：三重県員弁郡藤原町
さんかしゃ：３６名（指導員７名，友の会１８名，一般９名，子ども２名）

尾張支部の藤原岳特別企画も今年３回目。参加者も毎回増加してついに３６名の大部隊。昨日までの雨も上がり，絶好の花日より。まず，１４号台風の超大雨で坂本谷がズタズタになっていてビックリ。続いてヤマビルの被害者が出てドッキリ。

白瀬峠手前の支尾根までは花も少なく，みなさんお疲れ。なんと，空腹を抱えて白瀬峠に着いたのは，午後１時！

峠から藤原岳への尾根歩きは，快適。テンニンソウ・メタカラコウの黄，ミカエリソウ・ナデシコ・シオガマギクの桃，カワチブシ・アキチヨウジの青紫，シギンカラマツ・オオハナウドの白と，本当に鮮やかなお花畑を全員満喫。

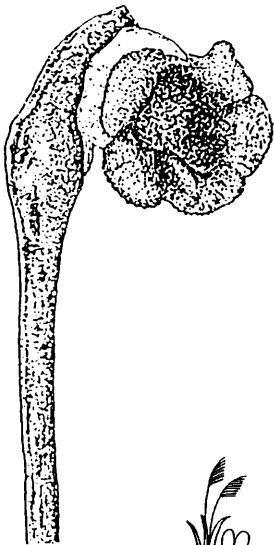
本日のメインイベントは，尾根の美しいススキ草原の根元でひっそり咲いていたオオナンバンギセル。“思い草”と呼ぶには少し華やか過ぎる気もするけど，珍しい植物。

少～しバテた人もいたものの，全員５時２５分発の列車に無事間に合って，ああ良かった！！

（北岡 明彦）

“藤原岳 秋のお花畑”

テンニンソウ（黄：左）とカワチブシ（青紫：右）



珍草

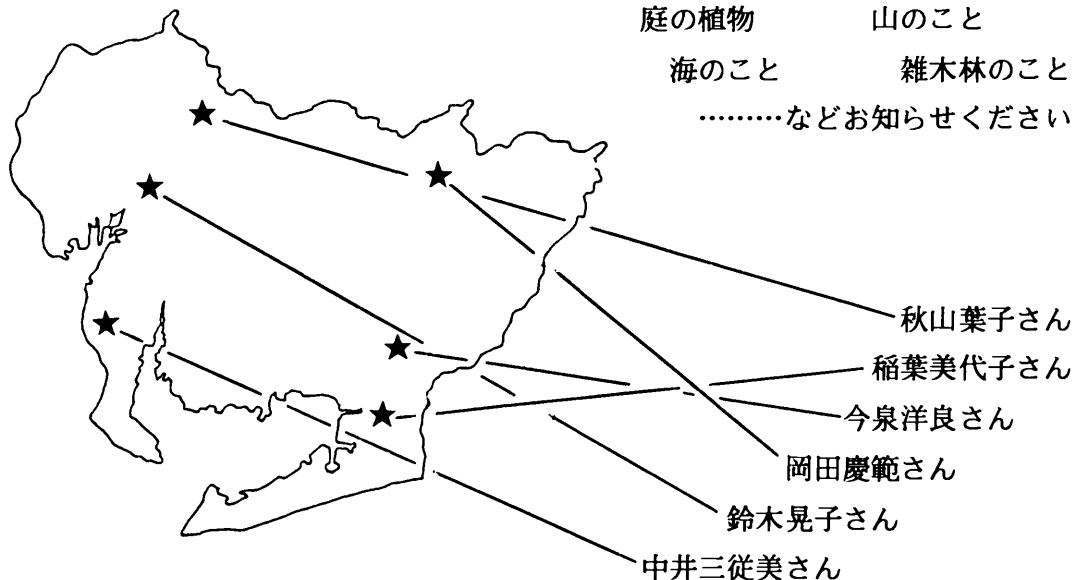


オオナンバンギセル
（ハマウツボ科）

見た花，全部で７４種類！

私の自然

いつもの風景 季節のこと
庭の植物 山のこと
海のこと 雑木林のこと
……などお知らせください。



常滑市鬼崎海岸は貝の標本庫

'93 8.31 中井 三従美

犬と海岸を散歩する。毎日、朝夕合わせて1時間半。今日はナガニシの貝殻を拾った。

1989.4.26 ウズラ模様の二枚貝を拾った。

“オキアサリと言って、おいしい”と地元の漁師さんに教わった。手持ちの図鑑にはなく、図書館で調べてみたらスタレガイであった。貝殻は以前より拾ってはいたが、これ以来、犬の散歩が私の楽しみに変わってしまった。

私の住む鬼崎海岸は、木曾三川（淡水性水草8種）や庄内川（枇杷島町・尾張旭市の看板）よりの贈り物（？）や、大型船よりの不用品（冷蔵庫・テレビ・ポリバス等）が漂着します。

海岸の汀線近くには沢山の貝殻が打ち上げられています。漁港近くにはアサリの養殖場もあり、春には潮干狩りも行われます。バカガイ・シオフキ・マテガイ・ツメタガイ・サ

ルボウ・カガミガイなど食べられるものも生息しています。しかし、平らな形をしたカキ（オオノガキ — 別名）は20～25年ほど前は近所の魚屋さんで売られていましたが、ここ数年、年間1～3個しか採れないそうです。（コケゴロモガキ？）

拾った貝は54種、その他、フジツボの仲間やナギナタホオズキ、ハスノハカシパンなどで、その中には、この鬼崎海岸では生息していないもので、どこかで買い求め、海岸にゴミとして捨てられた貝殻（アワビ・サザエ・・・）も含まれています。




勘違いをした生き物たち（新城）

今泉 洋良

近年生き物たちが迷ったというか、本来の姿でない行動が各所で報道される昨今ですが、新城地方で見かけたことを三つほど。

その1、当地方国道151バイパスが開通間もない車の少ない早朝のこと、カワセミがチャチャと鳴き声を上げて、路面すれすれに飛んでいるのを時々見かけました。朝日を受けて路面が水面に写ったことであろう、と感じた次第です。どこかのコンクリート張りの擁壁の排水口に巣作りをした、との記事を見かけましたが、これも豊川支流近くの橋のあたりに、上がって来たのであろうと思います。

その2、基礎整備の終わった水田が広々としてきて、昔はほとんど見かけなかった海辺か水辺の鳥たちが（確定できませんが）、田植えのシーズンなどに群れをなして飛来して来るようになりました。本年の5月中旬など、自家の春耕をした水田の中に、巣作りをして卵を抱いていたチドリの仲間と思われるを見て驚いた次第です。やがて田植えの準備の代掻きも始まり、そのままにしておきましたが、そのうち親鳥も飛び立ってしまい、ヒナをかえすまでには到りませんでした。

その3、シオカラトンボの産卵の様子から。最近の農業では、マルチングと言って、ポ！チレンのフィルムを、作物の植え付けの折り、株元の全面に敷く栽培方法が多くなりました。光線の反射する様子が水面に見えたのか、その上でシオカラトンボが打水産卵の行動をする様を見かけました。

これらの行動は、人間が環境を変えたことによることは間違いのないと思います。

これから、市の北側の尸峰山の山並の中腹を通る第2東名の工事や、市の西部地区・東部地区のゴルフ場計画の進行中などを考えると、山に棲んでいる生き物たちや植物などは、一生のうちに、トータルの平均温度1度の違いで生育に影響が現れる、と言われるくらいであるので、今後の変化を見守りたいと思っています。

♣ 設楽町駒ヶ原 ♣

93.8.29

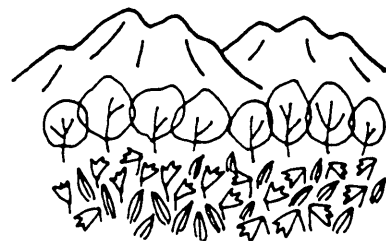
岡田 慶範

わが子と植物好きなメンバーとで、設楽町にある駒ヶ原山荘から上流に向かって林道を歩いた。当初は段戸山に登る予定であったが、植林されているので魅力がなくなりあきらめた。

残暑の厳しい中、川の中ではアマゴが気持ちよさそうに泳いでいる。その姿を見ていると、一瞬、目の前を鳥が通り過ぎた。色鮮やかで、カワセミのようでカワセミでない鳥といえば何だろうか。

川岸には花を咲かせたホツツジをよく見かける。ツツジらしくない花である。次に赤い実をぶら下げたフウリンウメモドキを見つける。「フウリン」と名がつくと、いかにも夏らしく感じる。

遮光ネットの張られたハウスの中には、シンビジュームの鉢がいっぱい入っている。その根元を見ると花芽が伸び始めている。気の早いのはもう花を咲かせている。そろそろシンビジュームの避暑も終わりだろうか。



情報コーナー

1. 「渥美の自然の会」の記録集No.4が9月10日に発行されました。

1冊1000円（送料310円）です。お問い合わせは、大羽康利さんまで。

愛知県渥美郡赤羽根町高松一色4 電話053145-2607

渥美の自然の講演会 記録集4

Lectures about Atsumi's Nature Report 4

2. 「自然の学校」から8月15日に記録集『自然のあしあと』が創刊されました。お問い合わせは、相地 満さんまで。

名古屋市熱田区伝馬2丁目4-7 電話052-671-4598

自然のあしあと

発行 ● 1993年8月15日



クサアジサイ

秋山 葉子

夏らしい日の少ない今年の夏でしたが、それがかえってよかったのが、我が家の「クサアジサイ」です。

ツゲの生垣と梅の木の間植えてあるクサアジサイは、例年なら8月のはじめごろ開花します。強い日差しと暑さのせいで、せっかくの花も陽に焼けて、汚れたエビ茶色のみすばらしい花になってしまいます。が、今年は例外でした。

8月中旬のある朝、その枝先に小さなピンクの花が幾つも咲いています。「こんなきれいな花だったのかしら」 急いで拡大鏡を持ち出して丹念に見ました。

3センチ程の一房の両性花の中には、

- ① 丸いつぼみのもの
- ② 5弁の濃いピンクの花の開いたもの
- ③ 花弁が下向きになって淡いピンクの花糸が、パッと開いた花火のようになっているもの
- ④ 3裂した花柱（これも淡いピンク）
- ⑤ 日経ってエビ茶色になったもの（苞も花柱も）

など、さまざまな花が混じっています。

外側を彩る3弁の中性花も、咲き始めは周辺が淡いピンク。それが段々と内側に向かって濃く染まってきます。裏返しになる頃は濃いエビ茶色です。

濃淡さまざまな紅色の諧調は、遠くから見ると、小さいながら、アカバナシモツケのような華やかさの中に、ちょっと渋みもあり、濃い緑の葉が、花の色を一層引き立てています。

涼しい林の中でこんなに見事に咲いているのでしょうか。切り花にして間近でしみしと愛で、自然の微妙な美しさに感動した平成5年の夏でした。



クサアジサイ 93.9.12

豊橋市東小浜町 私の散歩道

H5. 8. 20

稲葉 美代子

暑中お見舞いを残暑お見舞いと思いつつ、夏を待ち続けたこの夏。8月下旬になってやっと夏の訪れでしょうか。皆さまご機嫌如何ですか。

見渡す処水田だったと言われる柱町小浜町、その名残りの溜池が三つある。

その一、鯰池にホテイアオイが群生し緑一色。6月中旬から7月上旬に薄紫の花が咲き、楽しみだった。「去年は数株だったのに今年はなぜこんなに増えたのかネ」と近所の人が言ってくれた。

その二、大池は大人子供の絶好の遊び場。初夏の夜にはウシガエルがモーモー。秋から冬にはカモの他数種類の鳥の生活の場。池の大部分にハスが繁殖し、8月上旬から薄紅色の花が咲き始め、お盆頃は盛りだった。まさに極楽浄土に誘われる思い。「ほい大池のハスの花、綺麗だのん」と巷に聞かれるこの頃。

その三、柳池は水が満々、水鏡にはホリデイトワーが写る。ひと処にガマが生え、景色となる。



大池のハス

大池を中心に東西700米に位置する三池三様の相、自然はまだ残っている。

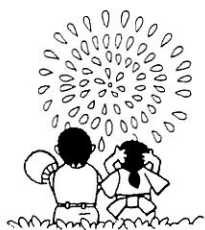
・・・想いで・・・

近くに屋敷木としてヤマモモがある。毎年実をつけ熟し道路に落ちる。二つ三つそっと口に含む。誰も食べないのかもったいない。

昔、田植えが終わると（6月中旬）、目指す山へモモを取りに行く。男の子は木に登り黒く熟したのを食べ、女の子は落とされた未だ紅い実を口に。小粒のまん丸の実、甘酸っぱい味が懐かしい。



鯰池のホテイアオイ



もう一つの裏山

鈴木 晃子

私のフィールドというと、やはり観察会で歩いているところの東山・八事裏山一帯という事になるでしょうか。

でも、もともとそこは、私というよりも子供達のフィールドであつたのです。

息子達の通った無認可の小さな幼稚園には園庭がほとんどありませんでしたが、そのかわり、裏山全部が園庭だったのです。まだおむつもとれないような小さな子から就学前の子まで、裏山に出かけては思い思いの遊びを展開していました。

遊具は持っていないくても自然は無限の遊びを提供してくれるので、どんな子も自分の遊びを見つける事ができたのでありましょう。みんな、裏山が大好きでした。

彼らは裏山を熟知しておりましたが、もとより「名前にこだわらず」、実質本位でありました。例えば——「しょんべん池」のまわりではいい粘土がとれる。（ここはテニスセンターになった。）カエルの卵は「オタマジャクシの池」のほかにあそこあその水たまりに産んである。崖すべりだったら「第五の国」の45°の斜面。崖登りは何てたって「人間地獄」だ。「グランドキャニオン」では、かくれんぼとか鬼ごっこ、土管くぐりもできる。うんこ石もとれる。（ここも道路になってしまった。）「グランドキャニオン」の下の池ではザリガニがとれる。（ここもなくなった。）「第三の国」の裏の林にはカブトムシやクワガタがいるし、「不思議の国」にはテントウムシがムチャクチャたくさんいる。「第五の国」のシャシャンボはうまい。それからナイショの話だけれど広場の横の竹やぶのタケノコはおいしい。

落ち葉のふとんにねっころがるのは気持ちいい。「第三の国」で日なたぼっこするのも



裏山の子供達

気持ちいい。

裏山の林にはBB弾がいっぱい落ちていゝ。まるで宝の山だ。裏山って、でえりゃあ（どえらく）おもしろいとこだよ。——という具合です。でもテニスセンターや道路ができて、もはやここも、子供達の安住の地（？）とは言えなくなっていました。

少し前まではどこにでもあつたこんな風景が、名古屋市内ではもうほとんど残っていません。だからこそ、残された貴重な緑を大切にしたいのです。次の世代の為に……。



会 員 の 動 き

【加 入】

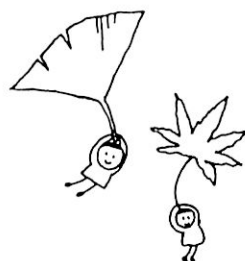
- 加藤実治（名古屋支部）
〒465 名古屋市名東区牧の里 2-2226
(☎ 052-702-3000)
- 原 譲（知多支部）
〒470-23 武豊町楠 4-87
(☎ 0569-72-2377)
- 池田桂子（東三河支部）
〒442 豊川市西豊町 1-186
(☎ 05338-6-8614)

【脱 退】

- 磯部亮一（知多支部）
- 辻 順子（名古屋・奥三河支部）

【住所変更】

- 富山 茂（尾張支部）
〒465 佐屋町柏木字前田西面 553
(☎ 0567-25-1300)



☆編集後記☆

- ★ 紅葉の便りが聞かれる時期になりました。私の家の庭では、太陽の光を受けて黄色が鮮やかな無数のキンエノコロと、ピンクの大合唱のイヌタデのあいだを、シジミチョウが2匹、たわむれながら元気に飛んでおりました。しかし、夜聞こえる虫たちの声は、このごろ若干ボリュームが落ちたように思います。
- ★ 協議会ニュースのほうは、今回も発行が大幅に遅れ、ご迷惑とご心配をおかけしてすみませんでした。いただいた原稿が、フロップイディスクの中でプリントアウトされる日を今か今かと待っておりましたが、長い沈黙を破ってついに発行できました。大きな声では言えませんが今回の47号は、9月号ではなくて10月号としました。この数字の変更は、苦肉の策でした。「エエーッ!!」とおっしゃらずに、よろしくお願いします。
- ★ みなさんからいただいた原稿をレイアウトしたりー太郎（ワープロソフト）で打っていると、しみじみと内容の深さと重さがわかります。人と自然とのつながり、自然の見方、人の苦勞などほんとうに勉強になります。ありがとうございます。次回の発行は11月末です。11月の15日頃までに投稿をお願いします。
- ★ 原稿送付先

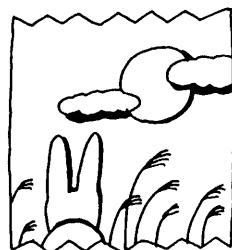
編集部会 〒491-02 一宮市奥町内込47-4 伏屋光信 ☎0586-61-4132



10月～11月の行事案内

★他支部の行事にも参加できますが、急な変更があるかも知れませんので照会の上、ご参加ください。

①主催 ②集合場所・時間 ③照会先 ④行事のテーマ・内容 ⑤参加費用 ⑥備考



「10月24日(日) 檜原公園観察会」

- ①知多自然観察会 ②常滑市檜原公園9:00
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④緑の少年団交流自然観察会

「10月31日(日) 身近な人里で自然観察会」

- ①東浦自然観察会
- ②東浦町文化センター9:30
- ③降幡光宏 ☎0562-55-6855



「11月3日(水) 自然観察会」

- ①自然の学校
- ②三重県多度町八壺溪谷10:00
- ③相地 満 ☎052-671-4598
- ④「色づく秋の観察会」

「11月7日(日) 県委託自然観察会」

- ①尾張支部
- ②定光寺参道前10:00(指導員9:30)
- ③北岡由美子 ☎0561-84-2953
- ④縄文の味『シイの実』を食べよう！

▲木の実探し探偵団▲



「11月14(日) 財賀寺観察会」

- ①東三河支部
- ②財賀寺仁王門(名鉄国府駅より5km) 13:00
- ③鈴木友之 ☎0532-61-8930
- ④「ムササビの森を見よう」
第一部 秋を探そう
第二部 飛ぶか？ムササビ
(第二部だけの参加は不可)
- ⑤一般・無料
- ⑥赤セロファン付き懐中電灯持参
終了予定は18時頃

「11月14日(日) 大高緑地公園自然観察会」

- ①大高緑地公園自然観察会
- ②大高緑地琵琶池ボート乗り場9:30
- ③石原洋一 ☎052-624-1998

「11月21(日) 東山八事観察会」

- ①東山自然観察会
- ②東山植物園ロータリー南9:30
- ③鈴木晃子 ☎052-834-2094
- ④静かな雑木林, 変化に富んだ地形, 池, 湿地などが見られる観察ルート
- ⑥毎月第三日曜日

「11月21日(日) 身近な人里で自然観察会」

- ①東浦自然観察会
- ②東浦町文化センター9:30
- ③降幡光宏 ☎0562-55-6855

「11月26日(金) 自然観察会」

- ①知多自然観察会
- ②阿久比町中央公民館18:30
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④「木の実・草の木の観察」
- ⑥各自持ち寄り観察

